

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## フィリピンも予想を上回る景気拡大が続く(Asia Weekly (8/23~8/27))

~ベトナムは貿易赤字が続き通貨切り下げを決定~

発表日:2010年8月30日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/23 (月)	(タイ) 4-6 月期実質 GDP (前年比)	+9.1%	+8.0%	+12.0%
	(前期比/季調済)	+0.2%	▲1.4%	+3.3%
	(シンガポール) 7 月消費者物価 (前年比)	+3.1%	+3.0%	+2.7%
	(台湾) 7 月失業率 (季調済)	5.17%	5.10%	5.20%
	7 月鉱工業生産 (前年比)	+20.70%	+21.00%	+24.69%
	7 月商業販売額 (前年比)	+9.08%	+8.00%	+10.39%
8/24 (火)	(ベトナム) 1-8 月輸出 (前年比)	+19.7%		+17.5%
	1-8 月輸入 (前年比)	+24.4%		+25.5%
8/25 (水)	(フィリピン) 6 月輸入 (前年比)	+1.4%		+31.4%
	(タイ) 金融政策決定会合 (政策金利)	1.75%	1.75%	1.50%
8/26 (木)	(フィリピン) 4-6 月期実質 GDP (前年比)	+7.9%	+6.3%	+7.8%
	(前期比/季調済)	+1.3%	+1.6%	+3.8%
	金融政策決定会合 (政策金利)	4.00%	4.00%	4.00%
	(シンガポール) 7 月鉱工業生産 (前年比)	+9.9%	+9.3%	+29.5%
	(前月比/季調済)	+1.4%	+4.1%	▲22.0%
	(香港) 7 月輸出 (前年比)	+23.3%	+29.7%	+26.7%
	7 月輸入 (前年比)	+24.9%	+30.5%	+31.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [フィリピン] ~移民送金の堅調を背景に内需が拡大。4-6 月期も 5 四半期連続でプラス成長~

25 日に発表された 6 月の輸入は、前年同月比+1.4%と前月 (同+31.4%) から大幅に鈍化した。前月比も ▲12.4%と前月 (同+4.9%) の増加から一転して大幅に減少、概ねすべての財で輸入が減少した。なお、同月輸出が前年同月比+33.7%と前月 (同+37.3%) から伸びが鈍化したものの、前月比は+7.4%と増加しており、貿易収支は+3.89 億ドルと 7 ヶ月ぶりの黒字となった。

26 日に発表された 4-6 月期の実質 GDP 成長率は、前年同期比+7.9%と前期 (同+7.8%) からわずかに伸びが加速した。前期比ベースでは+1.3%と前期 (同+3.8%) から鈍化したものの、5 四半期連続のプラス成長となるなど景気の底離れが進んでいる。世界経済の回復により GDP の約 1 割に相当する海外労働者からの送金が増加しており、個人消費が前期比+1.2%と前期と同じ伸びを続けたことに加え、アジア経済の回復に伴う輸出増によって増産が進んでおり、企業の設備投資が大幅に拡大したことも景気をけん引している。なお、5 月に実施された大統領選挙前に政府が大幅な歳出増を図った反動で、今期の政府支出は大幅に減少しており、あらためて政策による影響の大きさが改めて浮き彫りとなった。先行きについては、中国経済の減速感が高まっていることに加え、主要輸出先である米国経済の不透明感が強まるなど、輸出環境は厳しさを増している。また、先月誕生したアキノ政権は、アロヨ前政権が半年のうちに今年度予算の大半を消化したため、年

度内の歳出拡大が難しいことを示すなど、年後半には調整が避けられない見通しだ。

26日にフィリピン中央銀行は定例の金融政策決定会合を開催し、9回連続で政策金利である翌日物借入金利を4.00%に、翌日物貸出金利を6.00%に据え置く決定を行った。5四半期連続でプラス成長となるなど、経済は回復感を強めているものの、7月の消費者物価は前年同月比+3.9%、コア物価も同+3.7%と当局が定める目標(3.5~5.5%)の下限付近に留まっている。また、異常気象による食料品価格の上昇が懸念されてきたものの、足元では落ち着きを取り戻しており、一時急騰したエネルギー価格も下落するなど、年内に予定されている電力料金の引き上げを勘案しても、インフレ率は目標域内に留まるとの見方を示した。しかし、景気回復を受けてサービス価格に上昇圧力が高まってきており、年内にも小幅利上げを行う可能性は残ると予想する。

図1 フィリピン 輸出入の推移(前年比)

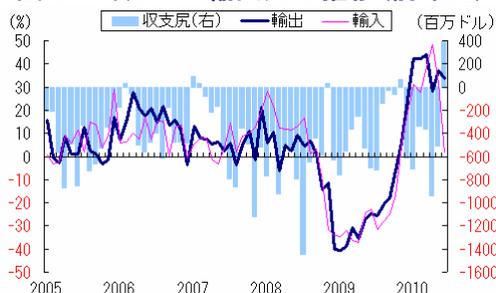


図2 フィリピン 実質 GDP 成長率の推移(前年比)

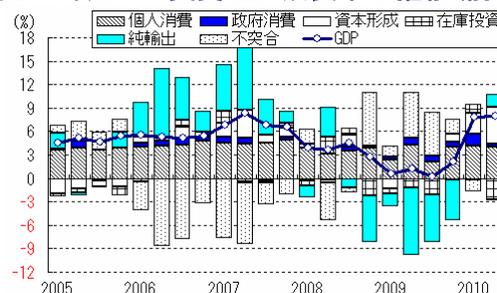


図3 フィリピン 労働者送金額の推移

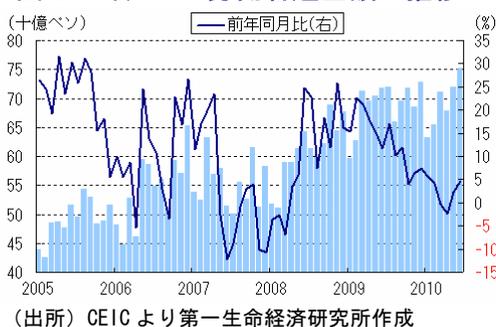


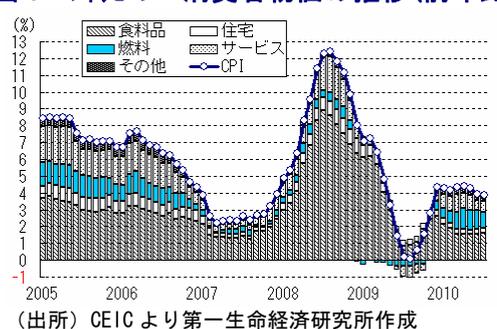
図4 フィリピン 製造業生産高の推移



図5 フィリピン 政策金利の推移



図6 フィリピン 消費者物価の推移(前年比)

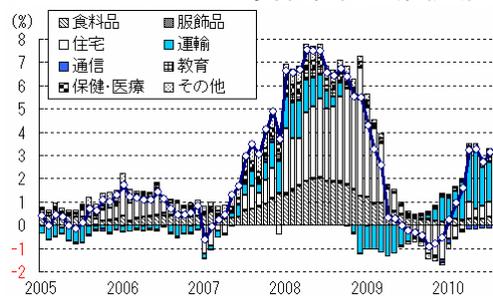


### [シンガポール] ~年前半の急拡大の反動で生産には調整圧力が掛かり易いものの、底堅さは続く~

23日に発表された7月の消費者物価は、前年同月比+3.1%と前月(同+2.7%)から加速した。前月比も+0.5%と前月(同▲0.4%)からプラスに転じており、食料品価格のほか、原油価格の上昇で運輸関連での物価が急上昇したことが影響した。なお、年前半の景気の急拡大の反動で、今後は調整圧力が掛かり易いと予想され、さらに国際金融市場での米ドル安及びユーロ安圧力を受けてSGドルは高値圏で推移していることから、輸入物価の下落を通じて物価の安定が期待される。

26日に発表された7月の鉱工業生産は、前年同月比+9.9%と前月（同+29.5%）から大幅に伸びが鈍化した。しかし、前月比は+1.4%と、大幅な生産縮小となった前月（同▲22.0%）の反動もあり、わずかに増加に転じた。特に先進国向けの需要が大きい医薬品は、先月は大幅な調整があったことから、今月は同+7.1%の伸びを確保している。なお、これを除いたベースでは横ばいとなっており、今後もアジア経済の堅調を背景に底堅い生産が続くと期待される。

図7 シンガポール 消費者物価の推移(前年比)



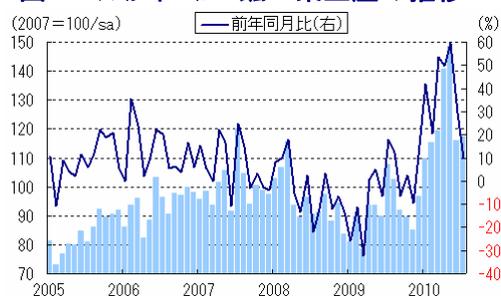
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 シンガポール 為替相場の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 シンガポール 鉱工業生産の推移

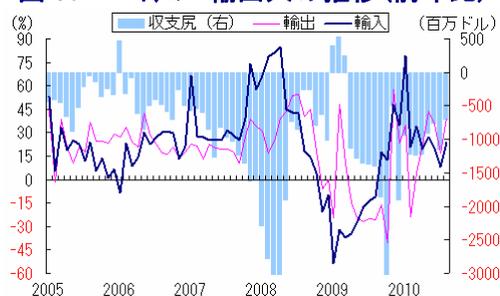


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【ベトナム】 ~貿易赤字幅は縮小するも対外脆弱性の懸念残る。当局は3度目の通貨切り下げを断行~

24日に発表された1-8月の輸出は、前年同月比+19.7%と前月（同+17.5%）から伸びが加速した。8月単月ベースでは前年同月比+38.9%と前月（同+17.0%）から伸びが拡大し、前月比+7.8%と前月（同▲8.5%）から増加に転じた。金融引き締めによる減速懸念が出ている中国向け輸出が増加に転じているほか、アジア経済の堅調を背景に総じて底堅く推移している。一方の1-8月の輸入は前年同月比+24.4%と前月（同+25.5%）から伸びが鈍化した。しかし、単月ベースでは前年同月比+24.0%と前月（同+7.9%）から伸びが加速しており、前月比も+0.3%と前月（同▲2.2%）から増加に転じている。輸出の増加が輸入を上回ったことから、8月の貿易収支は▲7.06億ドルと前月（▲11.50億ドル）から赤字幅が縮小した。なお、年明け以降も貿易赤字が続いたことは対外信用力を損なう要因となっており、今年17日には輸出振興により貿易赤字の縮小を目指す観点から、今年2月に続いて通貨ドンを2%切り下げを公表した。なお、今回のドンの切り下げは昨年11月以降では3度目となり、累計で10%以上切り下げられたことになる。

図10 ベトナム 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 ベトナム 為替相場の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上